

# 迎春



登米市長  
布施孝尚

## 夢と希望の大地から 輝く未来へ羽ばたく登米市に

新年明けましておめでとうございます。皆さまには、健やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

「さくら」が咲く春の息吹に向け、準備をはじめた登米市の大地から、しっかりと根を張り厳冬に耐える「すぎ」の林を眼下に、輝く太陽の光を全身に受け大空に飛び立ち大きく羽ばたく「はくちょう」のように、本年も登米市が飛躍することを切に願うとともに、そのための市政運営に全力を尽くして取り組んでまいり所存であります。

昨年を振り返りますと、4月に登米コミュニティエフエムが開局し、毎日地域の情報が発信され、わたしも日々登米市を再発見しております。

整備を進めてまいりました長沼工業団地へは、自動車関連企業のトヨタ東北株式会社さまと浅井鉄工株式会社さま、そして名古屋東部陸運株式会社さま3社の進出が相次いで決定し、市内企業との密接な連携が図られ、地元経済の活性化や雇用の拡大による若者の定住などが大変期待されるところであります。

また、老人福祉の拠点として地域密着型特別養護老人ホーム3施設の整備が進み、この春にはオープンできる予定であり、平成23年度には、さらに4施設の整備を行い、市民福祉の充実を図ってまいります。

9月には、登米市議会におきまして恒久平和を誓い「非核・平和都市宣言」が決議されました。

そして、10月には、登米市市制施行5周年を記念し、市の花「さくら」、市の鳥「はくちょう」、市の木「すぎ」を制定いたしました。「人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり」のシンボルとして、市民の皆さまに長く親しまれるよう願うものであります。

さて、デフレや円高、高い失業率など、先の見えない雇用不安が続く経済状況の中、地方自治体を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、中でもTTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加などの対応が議論となっており、登米市の重要な産業である農業に、多大な影響を及ぼすものと懸念されるものです。

本市においては、行財政改革、医師不足や医療収支の改善に向けた登米市立病院改革プランの着実な取り組み、学校給食センター再配置などの教育環境整備、子育てのしやすい生活環境づくり、まちづくり基本条例の制定など多くの課題がありますが、着実に取り組んでまいります。

このような変革の時こそ、市民目線をしつかりと持ち、市長として職員の先頭に立ち、「夢・大地 みんなが愛する水の里」の実現に一丸となって取り組んでまいりますので、昨年に引き続き皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、平和で明るく、希望に満ちあふれた年となりますことをご祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

## みやぎ県北高速幹線道路の開通と 企業の躍進・雇用の拡大に期待

明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、清々しき新年をお迎えのことと存じ上げます。

新春の日の出が、蚕飼山、大塚山、翁倉山の頂を金色に染め、弥惣峠、水界峠、羽沢峠をゆつくり越えて北上川、迫川、伊豆沼の朝もやに輝きを放ち、数万羽の雁たちを一気に飛翔させる。登米市の夜明け・大地の鼓動。

昨年は春の低温、夏の記録的猛暑に見舞われ、わたしたちの生活や農業生産に大きな影響を与えました。さらに、米の値段が大幅に引き下げられ、農家のみならず市経済にも大きな影響が出るのではと心配しています。

一方、誘致企業としてトヨタ東北株式会社さまを初め、3社が相次いで進出決定し、工場の建設が始まるなど、若い人たちの雇用確保に希望を与えてくれました。

国においては、政権交代を果した民主党権が参議院選挙で敗れ、ねじれ国会が再現、菅政権も混迷の度を増し、唐突なTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加表明は決して認めることはできません。

登米市誕生から6年が経過し、合併の契機となった広域4事業の最後の施設「汚泥再生共同処理センター」が完成。合併特例債活用事業は保育・学校・介護施設の建設や市道の整備、高規格救急自動車の配備など85事業、約170億円が投じられました。

特例債の活用期限や地方交付税の一本算定まであと4年、同規模自治体と比べて多い施

設、職員数。市民サービスを低下させず軟着陸させることは容易ではありません。

今年「みやぎ県北高速幹線道路」が開通し、「トヨタ東北株式会社」の操業がいよいよ開始されます。

本市議会は、自らの改革を進めるため「議会改革調査特別委員会」において議論を進めています。すでに、27回の委員会を開き、議員報酬、政務調査費の削減などを実施し、さらに、現在、福島大学の教授、市民公募の委員を交えて「議会基本条例」の制定に向けた議論の真つ最中です。

ともすれば批判と監視に重きを置く議会を執行部と緊張関係を保ちながら、均衡と協調を図り、市の未来と市民のための選択と意思決定をしていこうとするものです。

市民から直接選ばれた議会と、同じく市民から直接選ばれた市長が二元代表制の趣旨を踏まえ、切磋琢磨して市民福祉の向上を実現するため、議会が自ら報告会や市民との意見交換会を開催するなど市民要望を政策として提言・提案・実現をしていくのが骨子です。

また、「地域医療確立調査特別委員会」では、地域医療の本市の実情を踏まえ、市民と医師から望まれる市民病院の姿、開業医や保健福祉との連携、救急体制の整備、厳しい病院財政の今後など議論が続けられています。

議会維新を目指し、市民に開かれた新しい議会の姿を希求してまいります。市民皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。



登米市議会議長  
星 順 一